

不安定な市場環境が続くなか、 底堅く推移する先進国債券

世界の金融市場において投資家のリスク回避的な動きが続くなか、主要先進国の債券利回りは低下(価格は上昇)傾向が続いています。

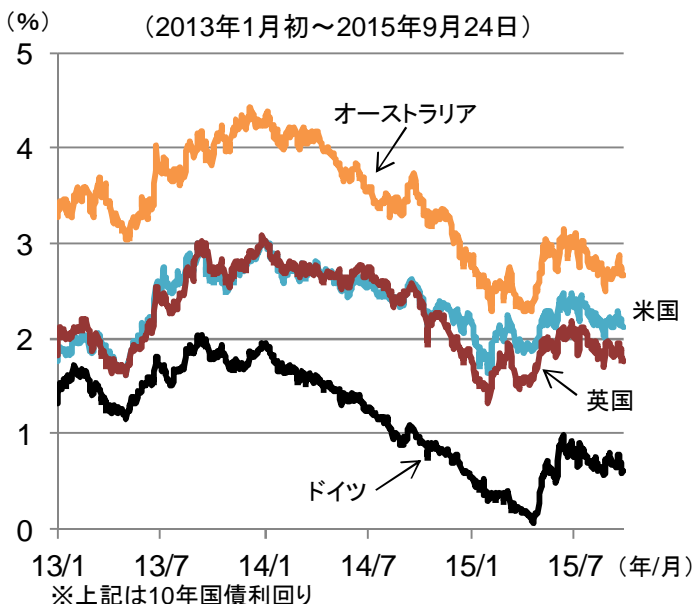
その背景には、主要先進国において、緩やかな景気回復や低いインフレ率から、低金利政策が継続されていることや、中国経済の減速に伴ない世界的に景気鈍化が懸念されていることがあります。特に、中国経済の減速は、コモディティ価格の下落を通じて、世界的にインフレ率の低下要因となっているほか、中国への輸出割合の高い国の景気を下押しする圧力となっています。

また、足元では、FRB(米連邦準備制度理事会)が9月の利上げを見送ったことで、利上げ時期について不透明感が続いていることも挙げられます。約10年ぶりの利上げということもあり、実際に利上げが行なわれるまでは、金融市場において不安定な状況が続くとみられます。一般に、信用力の高い先進国の国債は、金融市場でリスク回避的な動きが強まると買われる傾向にあります。そのため、今後も不安定な市場環境が続く場合、先進国の債券市場にとって追い風となる可能性があります。

一方、米国の利上げは、新興国からの資金流出懸念につながっており、新興国の中央銀行が自国通貨を下支えするために、外貨準備を取り崩す可能性が指摘されています。そのため、外貨準備によって保有されている先進国債券に売り圧力が続く可能性があります。しかし、米国を除く多くの先進国では緩やかな景気回復を背景に、金融緩和が続くと予想されているうえ、FOMC(米連邦公開市場委員会)参加者のFF金利見通し(15年9月時点、中央値)では、2015年末で0.4%、2016年末で1.4%と慎重な利上げペースがメインシナリオになると予想されていることなどから、今後の主要先進国の債券利回りは低い水準が続くと期待されます。

主要先進国の国債利回りの推移

(2013年1月初～2015年9月24日)

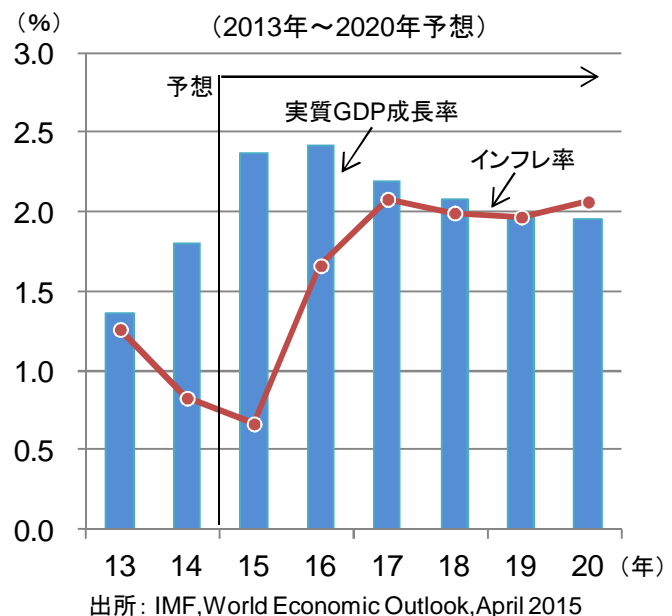


(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

先進国の実質GDP成長率とインフレ率の推移

(2013年～2020年予想)



日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。